

この号の内容 >>>

- ご挨拶
- 人事トピックス
- 今月の1枚!
- コラム「部長の哲学」
介護を考える

ライフタイムメディ デイ社内報

2024年
10月号

「ご挨拶」



こんにちは！
ライフタイムメディの通所介護事業・部長の湯本拓也です。
この度は社内の情報を共有するために社内報を発行することにいたしました。

通所介護事業部門では「ライフタイム上馬」「ライフタイム国立」「グリーンメディ明大前」の3か所に
デイサービスがあります。

では、それぞれのデイサービスがどんな場所なのか・どういった違いがあるのか・どんな職員がいるのかを知っていますか？
入社して間もない職員だけでなく、長年勤めている職員でも意外と知らないのではないのでしょうか。
かくいう私も、入社当初に働いていたライフタイム上馬から異動となるまでは、他の事業所の取り組みや活動はほとんど知りませんでした。

明大前の事業所にある訪問看護や福祉用具など別の部門となると、もっとわかりません。

いま振り返って考えてみると、知る機会がなかったのもひとつですが、知らなくても自分のやるべき仕事に影響がなかったからではないかと思います。

たしかに他のデイサービスのことを知らなくてもそれほど仕事に影響はないかもしれませんが。

ただ、少なくとも閉ざす必要はないですし、同じ会社で働いているわけですから、自分の職場以外の社内事情を知っておくことで視野が広がるものと考えています。

今の私はそれぞれ3か所の活動を知っており、良い取り組みをたくさん見えています。

それぞれの取り組みを気軽に共有できる方法として社内報を実践したいので、お付き合いください。
月に一度のペースで発行予定です！

今月の1枚 >>>

『歌声喫茶らいふたいむ』開催！

ライフタイム国立にて、歌声喫茶が開催されました！
懐かしの歌謡曲を、生の楽器で演奏♪
のど自慢大会も開催され、歌を披露して下さったご利用者様には
賞状が贈られました..✧

この日のご利用者は 30 名超！
皆様とても楽しまれ、大盛況に終わったようです。
懐かしの音楽を聴くと、心も体も元気になりますね♪



職員扮する、歌謡アーティストが来訪【写真上】



笑顔で鐘を鳴らすマーメイド
(松浦所長)
【写真右】

コラム「部長の哲学」>>>

介護を考える

「あなたにとって“介護”とは何ですか？」
このような質問を投げかけられたとき、何と答えますか？

「仕事」「家族を支えるために必要なこと」「困っている人の手助け」「大変なこと」
答えられる内容はたくさんありますね。
世の中のイメージもありますし、他人事なのか自分事なのか、質問の受け取り方にもよると思います。

そもそも「介護」の定義とは何でしょうか。
介護の言葉を広辞苑で引くと「病人などを介抱し看護すること」とあります。
厚生労働省の解釈では「歩行、排泄、食事、入浴等の日常生活に必要な便宜を供与すること」とあります。

これらの定義は、いずれも介護をする側(与える側)目線なのがわかります。
なるほど。『要介護』状態とは、そういう解釈があることが汲み取れますね。
決して間違いではありませんが、デイサービス事業の現場を知っている人、すなわちご利用者との関係を構築している介護士にとっては、なんだか腑に落ちない気がします。
デイサービスで働く中で、介護を通してご利用者から与えてもらうことも多いはずですから。

一方で、ひと昔前に私が読んだ介護の教科書には「介護士は“介護をさせていただく”という気持ちが大切である」と載っていました。それはそれで大袈裟な表現だなと思った記憶があります。

では改めて、「“介護”ってなんだろう？」という問いを自分自身で考えたことはありますか？
介護士として、どう自分自身の胸に秘めているでしょうか。

このように哲学的に考えること、物事の本質について論理的思考や理性に基づいて解明を図ること、
『正解のない物事の正解を考える』ことを、私は大切にしています。
『人を愛するとは何か』『人の喜びとは何か』『人生とは何か』『優しさとは何か』
このような簡単には答えが出ない問い=哲学と同じように、介護に正解なんてないのだと思います。

デイサービスの現場では、昨日の正解が今日の失敗ということが日常的に起きます。
「〇〇さんが△△な時は、□□をすれば大丈夫でした。」というようなケースで、次の日に同じ対応をしたとしても「〇〇さんを怒らせてしまった」ということがあると思います。
事例として共有するのは大切ですが、決めつけ(ルール)としてしまうのは良くないわけです。
今回は大丈夫だったけど次回は違うかもしれない、と思えなければ適切な対応はできません。

一人ひとりに対してその時々で違う対応が必要であり、病状・症例に対する傾向・対策はあっても、
「こういう時はこうすれば良い」という固定概念やルールでしか判断できないのは良くありません。
とは言ってもね… チームで介護をするには一定のルールを定めることも必要ですから、その線引きや共通の認識が難しいところです。

介護の定義を決める必要はありませんが、「相手にとって必要な支援を見極めて、共同作業をする」。
私は、そうしたケアが「介護」というものの在り方ではないかと考えます。
一年後、いや一か月後には違う答えになっているかもしれません。正解はありませんからね。

皆さんの思う介護を、ぜひ教えてください。

次号のお知らせ予定 >>>

- ご挨拶
- 人事トピックス
- 今月の1枚！
- お付き合いのある会社紹介
- コラム「部長の哲学」

毎月 25 日発行

編集：湯本

※この社内報および社内情報は、
外部に漏れないようご注意ください。